

韓国環境部プレスリリース 2020 年 1 月 18 日付

京畿道の野生いのしし弊死体から ASF ウイルス検出
(野生いのしし 84-86 例目)

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1198185&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は京畿道(キョンギド)坡州(パジュシ)市津東面(チンドンミョン)民間制限線中で発見した3個体の野生いのしし弊死体からASFウイルスが検出されたと1月18日明らかにした。

○坡州市(パジュシ)津東面(チンドンミョン)の死体のうち2個体は1月16日に、1個体は1月17日に住民によって発見された。

○坡州市(パジュシ)はASF標準行動指針(SOP)により試料採取後防疫措置とともに死体を処理した。

□国立環境科学院は1月18日、ASF陽性の結果を関係機関に通知した。これで坡州(パジュ)では31件の野生いのししASF陽性となり全国的には86件になった。

□国立環境科学院生物安全研究チーム長は“今回の死体は全2次フェンスの中で発見された。この地域では感染した死体がさらに出てくる可能性が高いため、死体の捜索を強化する”と話した。

以上